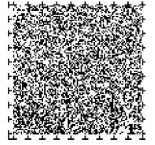


皆が安全で安心して 移動できる社会を目指して

特集



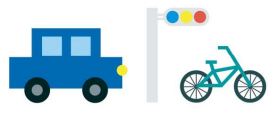
国は、全ての国民が年齢や障害の有無などによって分け隔てられることなく共生する社会の実現を目指して、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(通称バリアフリー法)を平成18年に制定し、バリアフリーへの取り組みを進めてきました。

また、鹿児島県においても、「鹿児島県福祉のまちづくり条例」を平成11年に制定し、全ての県民にとって心豊かで住みよいまちづくりに取り組んでいます。

本特集では、障害のある方の移動をめぐる課題に触れながら、自治体や各事業者のバリアフリーの取り組みをご紹介します。

～移動の際の障害のある方の困りごとに対する自治体や事業者の取り組み～

道路



困りごと(事例)

- ・歩道が狭く急に傾斜がきつくと、車いすで通ると危ない。
- ・駐車場からお店までの通路の点字ブロックの上に自転車が置かれていて、立往生してしまった。
- ・建物の玄関と駐車場が離れているが、重度の障害により長距離の移動は負担となるため、玄関の近くに駐車したい。

県の取り組み

<県道路のバリアフリー化>

・県管理道路では、高齢者や障害のある方を含め全ての人が安全かつ安心して移動できる環境づくりを目的として、バリアフリー新法に基づく県基準により、横断歩道に接続する歩道部と車道部等の段差解消や点字ブロックの新設・補修等を計画的に実施しています。



段差を解消



点字ブロックを新設

鹿児島県身障者用駐車場利用証制度 (パーキングパーミット制度)について



左の表示がある身障者用駐車場は、障害のある方や高齢の方、妊産婦の方など歩行が困難と認められる方へ県が発行した利用証を掲示することで使用できるスペースです。

本制度の対象となる方で利用証をお持ちでない方は、最寄りの窓口(県庁障害者支援室、地域振興局・支庁・事務所、ハートピアかごしま総務課)で申請くださるようお願いいたします。



県ホームページ

鉄道

困りごと(事例)

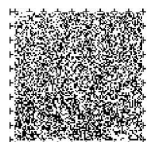
- ・駅で車両とホームの隙間に車いすの前輪がはまりそうで怖い。ホームの幅が狭く車いすで方向転換ができない。



事業者の取り組み(JR九州)

・駅では、ホームまでのご案内や乗降のお手伝いが可能です。事前にお電話かJR九州あんしんサポートネットでの申し込みをお願いします。

【連絡先】0570-07-8787または [JR九州あんしんサポート](#) で検索 (JR九州あんしんサポートネット受付案内センター)



困りごと(事例)

- 空港の駐車場からエアラインカウンターまで車いすを押してほしい。
- 車いすを利用しているが空港を利用する際にスーツケースなどの荷物が複数あり、1人で運べない。

空港



事業者の取り組み(鹿児島空港)

- 空港では、事前にご相談いただくことで、状況に応じて航空会社のチェックインカウンターまでの移動介助を行っております。スタッフが、寄り添ってサポートを行い安心して搭乗手続きを進められます。

【連絡先】0995-73-3638(音声ガイダンスに従ってお問い合わせください。)

困りごと(事例)

- 課外事業に参加したいが、移動時に乗車予定のバス路線が車いすに対応していなかった。

バス



事業者の取り組み(鹿児島市交通局)

- 段差のない低床構造のノンステップバスの導入率は令和8年3月末時点で89.76%に達しました。車いすやベビーカーでも安心して乗降でき、車内には専用スペースや手すりを備えています。

船舶

困りごと(事例)

- 車いすで渡船に乗ろうとしたが、乗船口に段差があり、付き添いがないと乗船できない。



事業者の取り組み(マリックスライン)

- フェリー乗船の際に、車いすのまま乗り降りができるスロープ付きの介護福祉車両(乗下船補助車両)を導入しております。事前にお電話での予約をお願いします。

【連絡先】099-225-1551(鹿児島予約センター)



国の取り組み

- 令和7年10月、九州運輸局等主催の「バリアフリー講習会in奄美沖縄フェリーターミナル」が開催され、旅客船の乗組員等が参加しました。講習会では、「心のバリアフリー社会の実現を目指して」をテーマに、求められる配慮等についての講義やターミナル・旅客船内での介助体験等を実施しました。

客船内では、装具を着用し加齢による身体的負担を体験。



車いすの方にも使いやすい
高さの記載台



ターミナル内では、車いす利用者への接遇や介助を実際に体験

県脊髄損傷者会会長 前田究さんへインタビュー

車いすユーザーの公共交通機関利用は「バリアフリーなルート」の確認作業から。交通機関側の取り組みが進んでいる今、ノンステップ車両などバリアフリー設備の写真や動画は大変参考になります。そして「お手伝いしましょうか」という周囲の温かい声掛けは、勇気をもろうと同時に困りごと解決につながります。障害を理解した施設の配慮と障害のある人の気持ちに寄りそう対応は、『心のバリアフリー』の輪を広げ、誰もが行きたいところに行ける社会をつくれます。

